

NEO 聖書詩
晶集

小泉友美
KOIZUMI T

目次

NEO 聖書詩晶集	1
---------------------	---

NEO 聖書詩晶集

旧約聖書内の創世記、出エジプト記とヨブ記を参考にして俳句にしてみました。

旧約聖書 創世記 天地の創造 1,1・2

「初めに、カミは天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、カミの霊が水の面を動いていた。」

混沌に
造り固める
天と地に

太古より
くらき淵舞う
神霊に

創世第1日目 1,3・5

「カミは言われた。光あれ。こうして、光があった。カミは光を見て、良しとされた。カミは光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。」

光あれ
昼夜わかれ
一日め

創世第2日目 1,6

「カミは言われた。水の中に大空あれ。水と水を分けよ。」

大空の
水分けられし
朝と夕

創世第3日目 1,10

「カミは乾いた所を地と呼び、水の集まった所を海と呼ばれた。」

乾きし地

木を芽生えさせ
海潤う

創世第4日目 1,16

「カミは二つの大きな光る物と星を造り、大きな方に昼を治めさせ、小さな方に夜を治めさせられた。」

大空に
昼夜治め
光もの

創世第5日目 1,21

「カミは水に群がるもの、すなわち大きな怪物、うごめく生き物をそれぞれに、また、翼ある鳥をそれぞれに創造された。カミはこれを見て、良しとされた。カミはそれらのものを祝福して言われた。産めよ、増えよ、海の水に満ちよ。鳥は地の上に増えよ。」

海に産め
鳥地に増えよ
祝うべき

創世第6日目 1,29・30

「カミは言われた。地の獣、空の鳥、地を這うものなど、すべて命あるものにはあらゆる青草を食べさせよう。」

人造り
魚鳥けもの
従いて

創世第7日目 2,1・3

「天地万物は完成された。第7の日に、カミは御自分の仕事を完成され、第7の日に、カミは御自分の仕事を離れ、安息なさった。この日にカミはすべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第7の日をカミは祝福し、聖別された。」

安息日
造り終え
祝われる

人間の創造 2,7

「主なるカミは、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」

土の塵
命の息吹き
ひとの形

命の木と善悪の知識の木 2,9

「主なるカミは、見るからに好ましく、食べるに良いものをもたらしあらゆる木を地に生えいでさせ、また園の中央には、命の木と善悪の知識の木を生えいでさせられた。」

善悪を
悟り識る
命の木

エデンの川 2,10

「エデンから一つの川が流れ出ていた。園を潤し、そこで分かれて、四つの川となっていた。」

エデンより
流れし 4 の
川めぐり

死 2,16・ 17

「主なるカミは人に命じて言われた。園のすべてを木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」

善悪の
知識の樹より
死がみのり

動物の誕生 2,19

「主なるカミは、野のあらゆる獣、空のあらゆる鳥を土で形づくり、人のところへ持って来て、人がそれぞれをどう呼ぶか見ておられた。人が呼ぶと、それはすべて、生き物の名となった。」

土くれで
形なされし
生き物よ

女性の誕生 2,21・ 23

「主なるカミはそこで、人を深い眠りに落とされた。人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その跡を肉でふさがれた。そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造りあ

げられた。主なるカミが彼女を人のところへ連れて来られると、人は言った。ついに、これこそわたしの骨の肉。わたしの肉の肉。これをこそ、女(イシャー)と呼ぼう。まさに、男(イシュ)から取られたものだから。」

眠りこみ
骨肉つなぎ
女となる

蛇の誘惑 3,2・3

「女は蛇に答えた。わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない。触れてもいけない。死んではいけないからと、カミ様はおっしゃいました。」

命の樹
誘われるまま
死はみのり

カミの歩 3,8・10

「その日、風の吹くころ、主なるカミが園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なるカミの顔を避けて、園の木の中に隠れると、主なるカミはアダムを呼ばれた。どこにいるのか。彼は答えた。あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。」

カミの歩に
恐れを覚え
面隠れ

蛇の呪い 3,14

「主なるカミは、蛇に向かって言われた。このようなことをしたお前はあらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。」

這うことで
呪われながら
塵となる

命の女エバ 3,20

「アダムは女をエバ(命)と名付けた。彼女がすべて命あるものの母となったからである。」

命なる
すべての母よ

エバの名に

カインとアベル 4,16

「カインは主の前を去り、エデンの東、ノド (さすらい) の地に住んだ。」

兄弟は

殺めさすらい

ノド (さすらいの地) にすむ

ノアの箱舟 7,6・ 7

「ノアが六百歳のとき、洪水が地上に起こり、水が地の上にみなぎった。ノアは妻子や嫁たちと共に洪水を免れようと箱舟に入った。」

箱舟の

いのちは絶えず

水増せど

祝福と契約 9,7

「あなたたちは産めよ、増えよ、地に群がり、地に増えよ。」

産めよ増え

地に群がりて

地に増えよ

バベルの塔 11,5・ 7

「主は降ってきて、人の子らが建てた、塔のあるこの町を見て、言われた。彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているから、このようなことをし始めたのだ。これでは、彼らが何を企てても、防げることはできない。我々は降りていき、直ちに彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられぬようにしてしまおう。」

おのおのの

言葉は乱れ

塔そびれ

夢は解く ヨセフ 40,12

「わたしが夢を見ていると、一本の葡萄の木が目の中の現れたのです。その葡萄の木には三本の蔓がありました。それがみるみるうちに芽を出したかと思うと、すぐに花が咲き、ふさふさとした葡萄が熟しました。」

ぶどう蔓
3 日明けては
夢明かし

フオラオの夢を解く 41,25・26

「ヨセフはフォラオに言った。フォラオのは、どちらも同じ意味でございます。カミがこれからなさろうとしていることは、フォラオにお告げになったのです。七頭のよく育った雌牛は七年のことです。七つのよく実った穂も七年のことです。どちらの夢も同じ意味でございます。」

七つなる
雌牛実る穂
天の意思

旧約聖書 出エジプト記 15,20・21

海の歌

「アロンの姉である女預言者ミリアムが小太鼓を手にとると、他の女たちも小太鼓を手を持ち、踊りながら彼女の後に続いた。ミリアムは彼らの音頭を取って歌った。

主に向かって歌え。

主は大いなる威光を現し、馬と乗り手を海に投げ込まれた。」

主の威光
馬 海にいり
歌となる

マラの苦い水 15,22

「モーセはイスラエルを、葦の海から旅立たせた。彼らはシュルの荒野に向かって、荒野を三日の間進んだが、水を得なかった。マラに着いたが、その水は苦くて飲むことができなかった。こういうわけで、その名はマラ (苦い水) と呼ばれた。

苦い水
甘く変わりて
掬なる

旧約聖書 ヨブの記

塵 4,19

「まして人は塵の中に基を置く土の家に住む者。しみに食い荒らされるように、崩れ去る。」

塵とあり

日の出の入りに
崩れ去る

人の苦しみ 5,7

「それなのに、人間は生まれれば必ず苦しむ。火花が必ず上に向かって飛ぶように。」

苦しみは
火花をちらし
闇と在る

忘れないで 7,7

「忘れないでください。

わたしの命は風に過ぎないことを。

わたしの目は二度と幸いを見ないでしょう。わたしを見ている目は、やがてわたしを見
失いあなたが目を注がれても、わたしはもういないでしょう。」

忘れずに
命は風に
盲む目に

おわりに

新約聖書のヨハネの福音書の冒頭に、「はじめにことばがありき」ということばがあり
ます。

このことばはカミそのものであって、張りきって、このことばの内にはいのちが漲って
おり、受肉として救世主のキリストが誕生したといわれています。聖書を通して、詩と
して創作することは、わたしにとっていのちをいきることを感謝させてくれます。

平和の祈りとともに

「ひとつより

ふたつにあって

カミ語る」

2025 年 4 月 8 日 フランス アンジェ 祈

NEO 聖書詩晶集

著 者 小泉友美 Koizumi Tomomi

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
